

福山市

1 福山市における孤独・孤立対策について

■ これまでの取組、課題、あるべき姿

- 従前より、行政とNPOが連携して以下のような支援を実施している。
【ひきこもり】福山市ひきこもり相談窓口「ふきのとう」を設置しており、連絡会議という会議体にて年1回関係課で会議を実施
【子ども食堂】子ども食堂に対するサポートとして運営する団体に「福山市子ども食堂応援金」を交付、実施団体と行政の意見交換を実施
【若者・くらしの悩み相談】ひきこもり・不登校・ニート問題を抱える子ども・若者・家族を支える支援機関として「ふくやま・ヤングサポートネットワーク」を設置し、官民連携して研修会等を実施
- 本事業を通じて、関係機関のネットワークを構築し、官民間わす各支援分野の担当者間の横のつながりを強化していきたい。

2 福山市版孤独・孤立対策官民連携プラットフォームの形成

■ PF等の構成

- 行政・民間ともに、従来の福祉関係者だけでなく、**まちづくり関連のステークホルダーと連携**し、「交流の場づくり」を意識した取り組みを目指す。
- 設立自体は行政で行うが、参加した団体同士がつながり、新たな取り組みを生んでいくことを目指す。**
- 既存の会議体（重層的支援会議等）とスケジュールを合わせ、**メンバーに負担が生じないように留意**する。

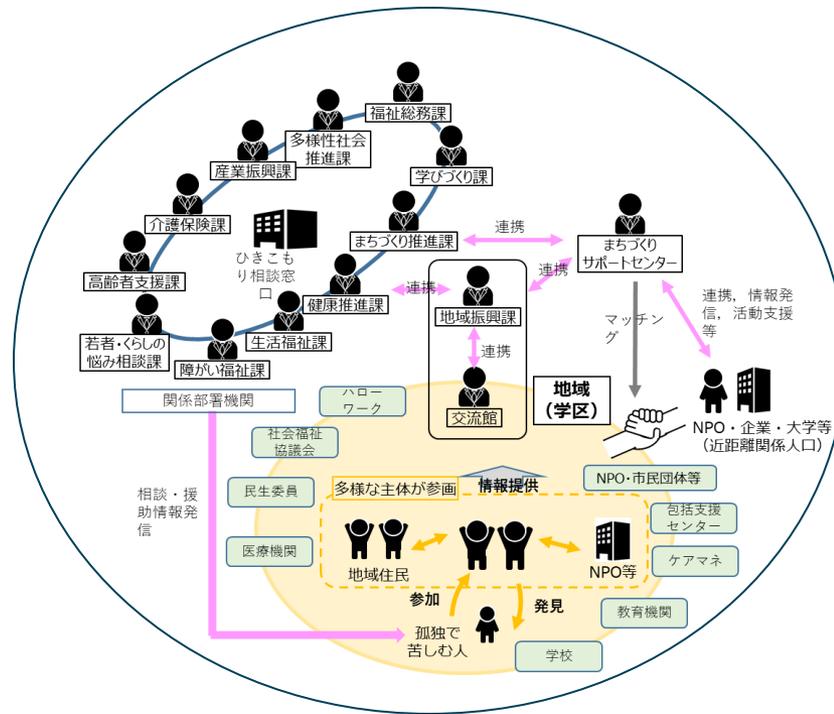
【設立時期（予定）】

2024年（令和6年）5月

【設立メンバー】

- 福山市（行政）
- 社会福祉法人 福山市社会福祉協議会
- NPO法人
- 各種ボランティア団体
(居場所づくり、学習支援など)

■ PF組織図イメージ（将来像）



2 福山市版孤独・孤立対策官民連携プラットフォームの形成

■ PFが果たす役割

行政・地域・NPO・事業者が日常的に課題を共有し、資源を持ち寄り、協力して解決していく包摂的な地域づくりを目指し、

①業種/支援分野を超えた支援者の連携・理解促進の場づくり

②市民の複合的な悩みを、分野を絞らず対応できる環境づくり

に取り組む

■ 福山市版PFの特徴

- 孤独・孤立というテーマについての理解がまだ浅いので、事例の共有等からスタートして、「**何ができるか**」から話し合っていくことを想定している。
- 会議では、**対処法の検討ではなく予防の観点**からどのような取り組みができるかを協議していきたい。
- まちづくりとコラボしながら孤独・孤立対策を進めていく。地域団体等に状況を知っていただいて、つながることで孤独・孤立を予防するような取り組みを進めていきたい。
- メンバーを固定とせず、地域の関係者やワークショップ参加者等に声掛けをすることで、新たな構成員を巻き込んでいくことを目指す。

■ PF設立に向けた準備状況

- 2024年2月時点で設置要綱等を準備中（年度内には完成予定）
- 2024年5月にPFの設立を発表し、本PFとしての初回の会議を開くことを予定している。
- 既にある会議体（ネットワーク、重層など）に本PFのメンバーを招いて、孤独・孤立のトピックについて話をしてもらうことを想定している。

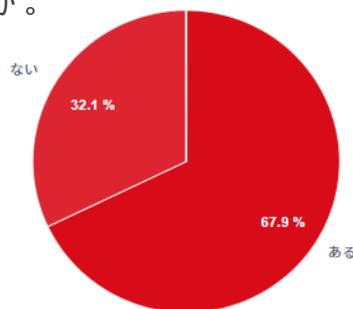
3 その他、次年度以降の取り組み予定

- 市民向けの孤独・孤立に関するアンケートを実施して、全国を対象とした調査結果との違いを比較したい。
- NPO以外の民間事業者向けに声掛けしてワークショップを実施することを検討している。例えば商店街の事業者等
- 市の広報誌等を利用して、孤独・孤立問題と市で行っている取り組みについて市民への周知を行うことを予定している。

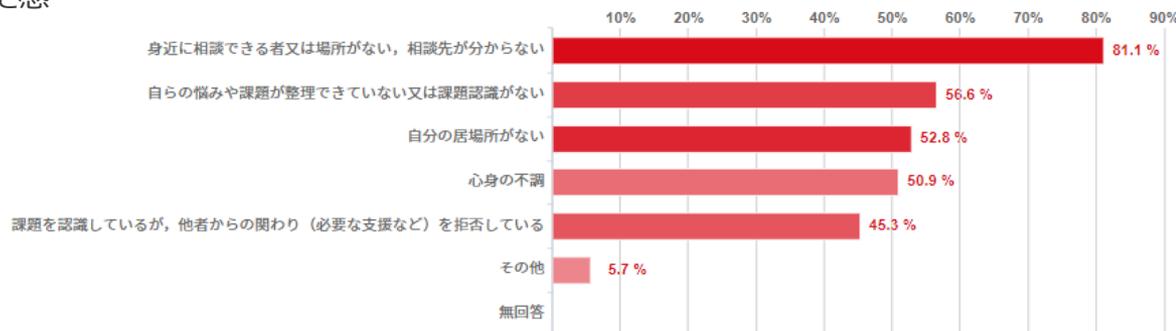
実際の活動の状況【孤独孤立に関するアンケート】 ※以下は設問・回答の一部を抜粋

福山市まちづくりサポートセンター「まちサポ」登録団体、「福山市子ども食堂ネットワーク」登録団体、「ふくやま・ヤングサポートネットワーク」構成団体、地域包括支援センター・居宅介護支援事業所・相談支援事業所等の延べ410団体に対してアンケートを配布し、53団体から回答を受領した。

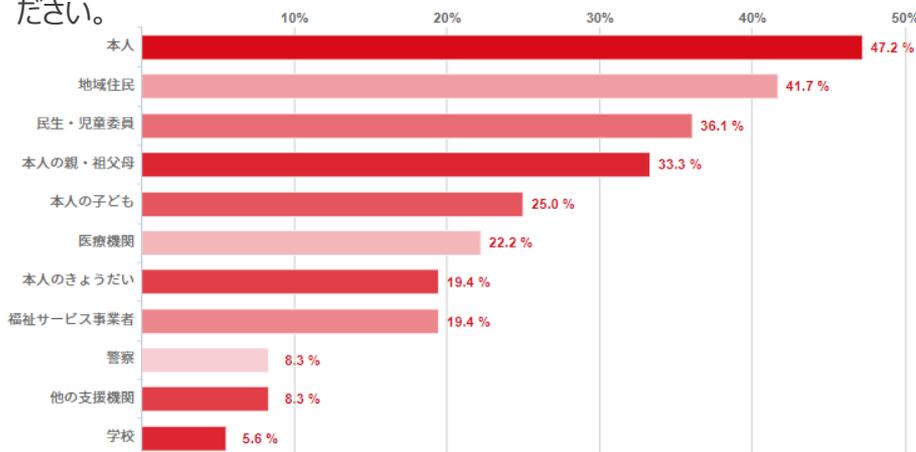
・貴団体における相談のうち、孤独や孤立状態にあると感じるケースはありますか。



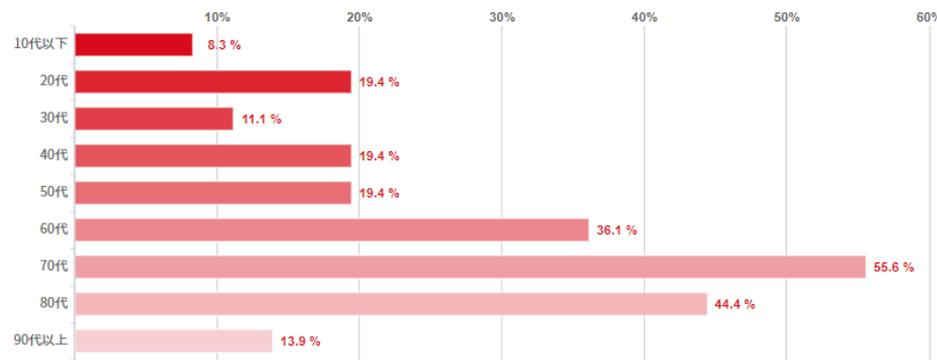
・孤独や孤立状態にある方の抱える悩みや課題が解決しない要因は何だと思いますか。



・孤独や孤立状態にあると感じるケースの相談者として多いものを教えてください。



・孤独や孤立状態にあると感じる相談者について、本人の年齢層を教えてください。



実際の活動の状況【孤独・孤立フォーラム（2024.2.10）】

孤独・孤立に関するフォーラム

先着100名
(事前申込制)

参加費
無料

～孤独・孤立とこれからの
つながりについて考える～

「孤独・孤立」は、人生のあらゆる場面で誰にでも起こり得るもので、社会全体で対応しなければならぬ課題です。近年、人と人との「つながり」が希薄化し、より深刻な問題となっています。

そこで、長年、地域づくり・人づくりに携わっている講師を迎えて、国の孤独・孤立対策の方向性を踏まえ、互いに支え合い、人と人との「つながり」が実感できる地域づくりに向け、私たちに何ができるのかを共に考えていくためのフォーラムを開催します。

日時 2024年(令和6年)2月10日 土
14:00～16:00

会場 まなびの館ローズコム 4階 中会議室 (福山市霞町一丁目10番1号)

内容 第1部 講演
孤独・孤立対策の概要と地域でできること
講師: 大西 謙 氏 (内閣府孤独・孤立対策担当室政策参事/
認定NPO法人自立生活サポートセンターもやい理事長)

第2部 講演
つながりを生み出す地域づくり
講師: 前神 有里 氏 (一般財団法人地域活性化センターフェロー・人材育成プロデューサー)

主催・お問い合わせ先
福山市 保健福祉局 福祉部 福祉総務課
☎084-928-1061
メール fukushi-soumu@city.fukuyama.hiroshima.jp

お申込みはこちら
支援機関の方、孤独・孤立問題や地域のまちづくりにご興味のある方、どなたでも参加可能ですので是非ご参加ください。
<https://www.city.fukuyama.hiroshima.jp/ques/questionnaire.php?openid=854>

申込締切
2月7日(水)

※申込受付時間: 10時～17時(受付終了) 申込受付: 10時～17時
※申込締切日: 2月7日(水) 申込受付: 2月7日(水) 申込受付: 2月7日(水)



●孤独・孤立フォーラムの様子



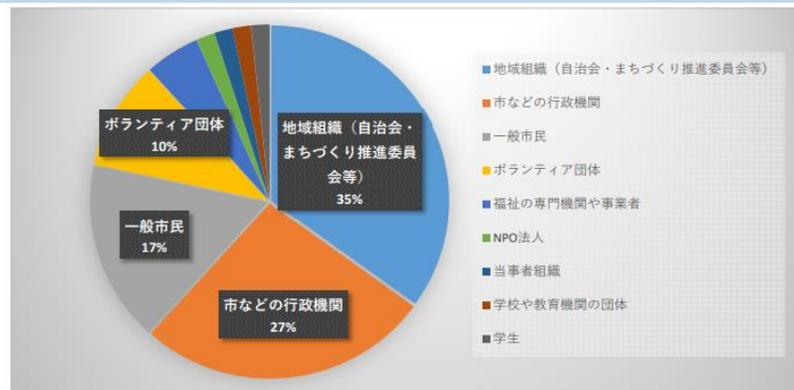
●試行的事業にて作成したロゴマーク

実際の活動の状況【孤独・孤立フォーラム（2024.2.10）】

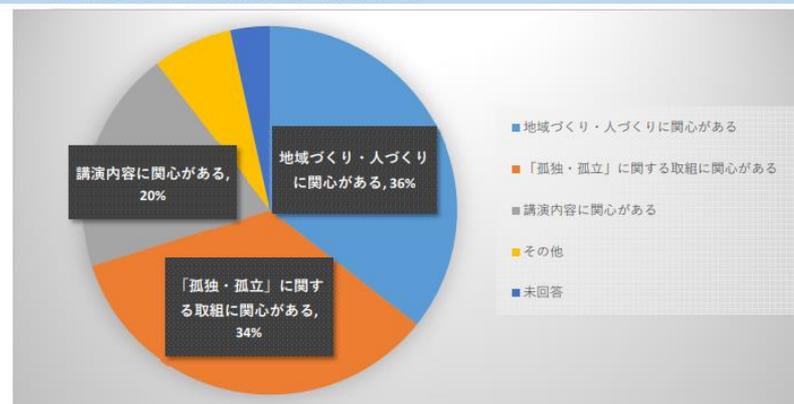
受講人数：60名

アンケート回答人数：51名

参加区分（所属団体等）



Q1. どのような動機で参加されましたか。（複数回答可）



フォーラムで印象に残ったこと、感想等（一部抜粋）

- 「孤独・孤立」を感じている割合、4割の中、20代～50代が多いという話でしたが、民生委員として活動している中で、その年代こそ接点もなく町内での情報が入りにくい現状がある（個人情報扱いの厳しさから）。
- 行政と地域、民間と一緒に頑張ろうという意気込みを感じた。また参加したいです。ありがとうございました。
- 自分にも孤独・孤立の問題は身近になるなと強く感じました。コミュニティナースの活動、まずは場の設定が必要。「未来は誰にも未経験」「否定から入らない」など、人とのつながりを作っていく中でヒントになる言葉がたくさんありました。
- フォーラム実施からの次のステップに具体的に動き出せる自治体に育っていきけるとよいのになあと感じます。力のある民間団体や市民は複数あり、様々な提案があがっているかと思います。官民両輪で中・長期的に取り組んでほしいです。

実際の活動の状況

○2023年11月19日に開催された「みんなのつれのうて文化祭」においてステージ発表を実施



○2024年1月12日に「孤独・孤立対策官民連携PF設立に向けたワークショップ」を実施

目標：[理解する]お互いの活動や課題を理解する（相互理解）
[つながる]孤独・孤立対策の担い手がつながる（関係構築）
[高めあう]学びあいを通じてノウハウを高めあう（相互理解）

参加者：25名

○2024年2月に、広報「ふくやま」2月号に孤独・孤立に関する記事を掲載（市民啓発）



テーマ：一人ひとりが大切にされ つながり合うまちづくり
孤独・孤立問題に向き合う

○2024年2月14日に「孤独・孤立に関するセミナー・ワークショップ」を実施

第1部 セミナー「聴く力/こころの応急手当て法」

第2部 ワークショップ「孤独・孤立を予防するまちをみんなで解く」

大きな模造紙やLEGO®（レゴ®）を用いたワークショップで、手を動かしながら対話することでの課題と目標の共有をめざす。



実際の活動の状況【社会資源マップの更新・デザインの修正】

<ひきこもり相談・支援>

- ①公益財団法人 福山市スポーツ協会青少年育成課
 (福山市自然研修センター・ふくやまふれ愛ランド)
 ▶ ひきこもりがちな概ね 15 歳から 39 歳の青少年への支援
 ▶ ひきこもり・ニート問題を抱えるご家族の支援
- ②福山市若者・くらしの悩み相談課
 ▶ ①の事業と連携した、市内協力企業での職場体験、居場所の提供
- ③福山市保健所健康推進課
 ▶ ひきこもり相談窓口「ふきのとう」で臨床心理士による定例のひきこもり専門相談、保健師による随時の電話・来所相談を実施。家族を対象とした【ひきこもり家族教室】【ひきこもり家族交流会「風のある庭」】を実施
- ④特定非営利活動法人 どりいむスイッチ
 ▶ 社会参加に困難を有する子ども若者のための相談
- ⑤特定非営利活動法人子ども・若者支援マイプレイス
 ▶ 居場所の提供、自立にむけた相談・支援
- ⑥特定非営利活動法人 ふくてん
 ▶ 社会復帰にむけた様々な相談・支援

<就職支援>

- ⑦ふくやま地域若者サポートステーション
 ▶ 若年者就労支援 (グループ支援、職場体験等)

<学習・就学支援>

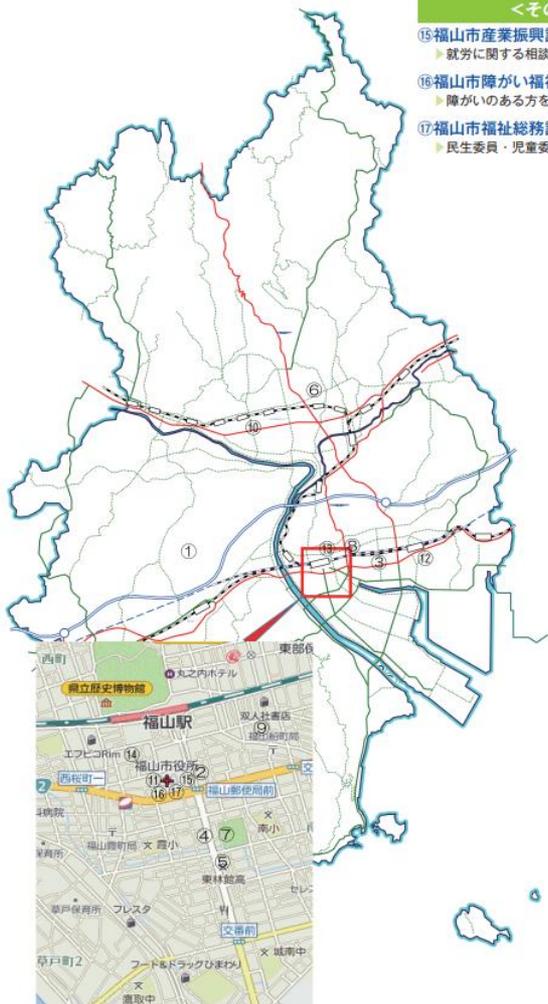
- ⑧福山市教育相談センター
 ▶ 電話教育相談、心理相談
- ⑨特定非営利活動法人 学習支援ヴァバウス
 ▶ 発達障害・学習障害のある人への学習支援
- ⑩家族と教育を考える会
 ▶ 学習支援、カウンセリング、自助グループ

<その他の支援>

- ⑪福山市ネウボラ推進課
 ▶ ひとり親家庭、寡婦を対象とした悩み相談等
- ⑫特定非営利活動法人 フリマドンナ
 ▶ 発達障害のある人への学習支援、相談
- ⑬みんなのカウンセリングルーム
 ▶ 心理的サポートが必要な方へのカウンセリング。カウンセラーは、臨床心理士及び、公認心理士有資格者
- ⑭退所児童等アフターケア事業所 カモミール
 ▶ 社会的擁護の下で育っている、育った方への支援

<その他の支援>

- ⑮福山市産業振興課
 ▶ 就労に関する相談、情報提供、セミナー等の実施
- ⑯福山市障がい福祉課
 ▶ 障がいのある方を対象とした支援
- ⑰福山市福祉総務課
 ▶ 民生委員・児童委員に関する相談



福山市 社会資源マップ

子ども・若者 相談支援機関ガイド

ひきこもり・不登校・ニート問題を抱える子ども・若者・家族の支援に関わっている機関・団体を紹介します。

このガイドでは、ひきこもり・不登校・ニート問題について悩みを相談できる窓口及び支援団体を紹介しています。このリーフレットを手に取ることから…あなたと家族のスタートです。

ふくやま・ヤングサポートネットワーク ベアベア (愛称：PAI x 2)

このリーフレットには、福山市内のひきこもり等の子ども・若者・家族の支援に関わっている機関・団体で、連携のあり方について考えるネットワークの構成団体について掲載しています。

愛称は、このネットワークが、地域の子ども・若者・家族と“ベア”になる存在になりたいと、姉妹都市のハワイの言葉で、福山市のシンボルマークの“こうもり”のことを“オーベアベア”ということからつけられました。

事務局：福山市市民局まちづくり推進部
 若者・くらしの悩み相談課
 TEL 928-1046 FAX 927-9121
 <2023年8月現在>

4 試行的事業の実施状況

事業名称	事業内容	目的・期待される効果	実施時期	発注先(予算配分)
「みんなのつれのうて文化祭」におけるステージ発表	「まちサポ」登録団体同士の交流や活動の周知を目的とした発表（孤独・孤立の問題に対して、各相談支援機関やNPO等の連携の基盤となるPFの形成に向けた取組等）	NPOや市民団体の孤独・孤立への興味関心の促進、PFへの参加	2023.11.19	無
孤独・孤立対策に向けたアンケート	「まちサポ」「福山市子ども食堂ネットワーク」「ふくやま・ヤングサポートネットワーク」の登録団体向けに孤独・孤立対策に関するアンケート実施・分析	今後の施策検討への反映、NPOや市民団体の孤独・孤立への興味関心の促進、PFへの参加	2023.12.11～12.22	NTTデータ経営研究所： (900,000円)
ワークショップの開催	アンケートを経て、「孤独・孤立対策」に興味がある団体を含めて開催する。支援者間での意見交換・勉強会を実施	支援者間の連携を促進 普段担当していない分野の状況把握、知識の獲得	①2024.1.12 ②2024.2.14	講師：松原裕樹様 (31,620円) 講師：宮崎宏興様 (39,550円)
孤独・孤立に関するフォーラム開催	孤独・孤立についての講演、取組事例の紹介を行う	支援者間の連携を促進 孤独孤立に対する、他市を含めた全国的な取り組みを知る	2024.2.10	丸井工文社（ポスター・チラシ作成） (94,500円) 講師：大西連様 (76,990円) 講師：前神有里様 (38,780円) 手話サークルとんど（小西舞子様、鈴木和子様）： (8,000円)
ロゴマーク・リーフレット作成	孤独・孤立についての取り組みを行う支援機関や窓口に掲示するロゴマークを作成、「つながる」シート活用促進のリーフレット作成	孤独・孤立を抱える方が、どこに相談すればよいかが一目でわかるようにするため	2024.2.29	フクワライ舎 (220,000円)
社会資源マップの見直し	行政・NPO・市民団体等を含めた孤独・孤立問題に対するアクセス先を視認性のよいマップ化する（既存のものを改訂しデザインを見直し）	悩みを抱える市民に対し、近隣にどのような支援団体があるのか及びその連絡先を理解いただく	2024.2.29	丸井工文社 (60,000円)
			合計	1,469,440円